

I 調査結果の概要

1 漁業・養殖業生産量

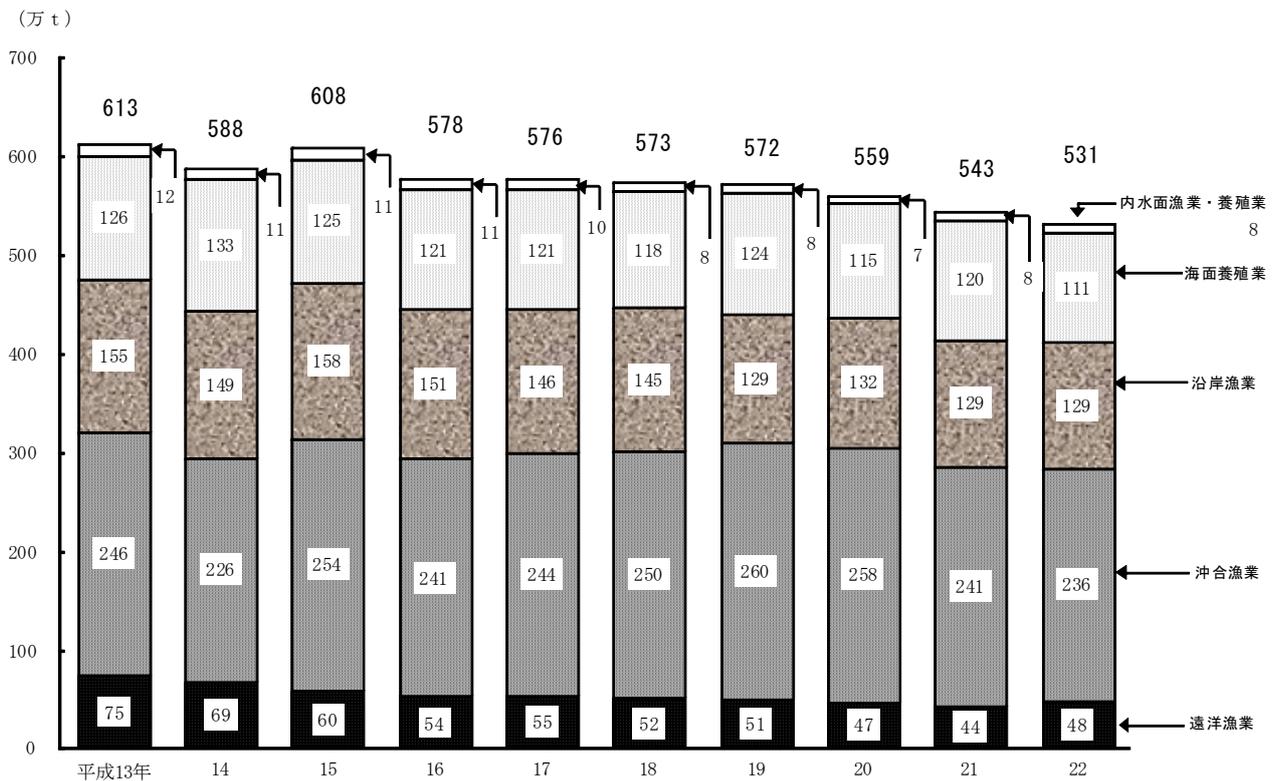
平成 22 年の我が国の漁業・養殖業の生産量は 531 万 2,687 t で、前年に比べ 11 万 9,324 t (2.2 %) 減少した。

このうち、海面漁業の漁獲量は 412 万 2,102 t で、前年に比べ 2 万 5,272 t (0.6 %) 減少した。

これを部門別にみると、遠洋漁業は 48 万 74 t で、前年に比べ 3 万 7,157 t (8.4 %) 増加、沖合漁業は 235 万 6,340 t で、前年に比べ 5 万 4,668 t (2.3 %) 減少、沿岸漁業は 128 万 5,688 t で、前年に比べ 7,761 t (0.6 %) 減少した。

また、海面養殖業の収穫量は 111 万 1,338 t で、前年に比べ 9 万 734 t (7.5 %) 減少した。内水面漁業・養殖業の生産量は 7 万 9,247 t で、前年に比べ 3,318 t (4.0 %) 減少した。

図 1 漁業・養殖業生産量の推移



注：表示単位で四捨五入しているため、計と内訳が一致しない。

(1) 海面漁業

海面漁業の漁獲量は412万2,102 tで、前年に比べ2万5,272 t (0.6%) 減少した。

ア 部門別漁獲量

(ア) 遠洋漁業

漁獲量は48万74 tで、前年に比べ3万7,157 t (8.4%) 増加した。

これは、遠洋いか釣り等が減少したものの、遠洋底びき網、遠洋まぐろはえ縄及び遠洋かつお一本釣り等が増加したためである。

(イ) 沖合漁業

漁獲量は235万6,340 tで、前年に比べ5万4,668 t (2.3%) 減少した。

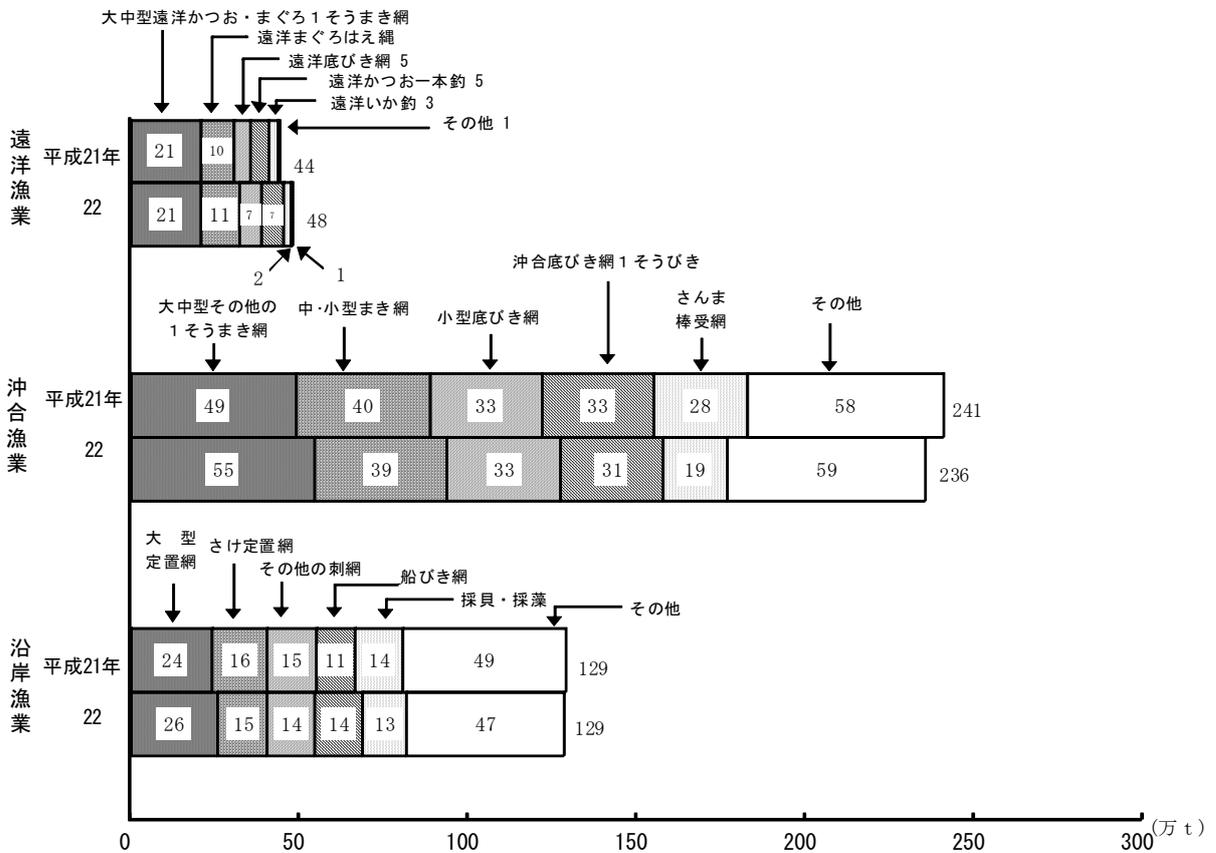
これは、大中型その他の1そうまき網等が増加したものの、さんま棒受網、沖合底びき網1そうびき等が減少したためである。

(ウ) 沿岸漁業

漁獲量は128万5,688 tで、前年に比べ7,761 t (0.6%) 減少した。

これは、船びき網、大型定置網等が増加したものの、さけ定置網、採貝・採藻等が減少したためである。

図2 海面漁業部門別主要漁業種類別漁獲量



注：表示単位で四捨五入しているため、計と内訳が一致しない。

図3 海面漁業部門別漁獲量の推移

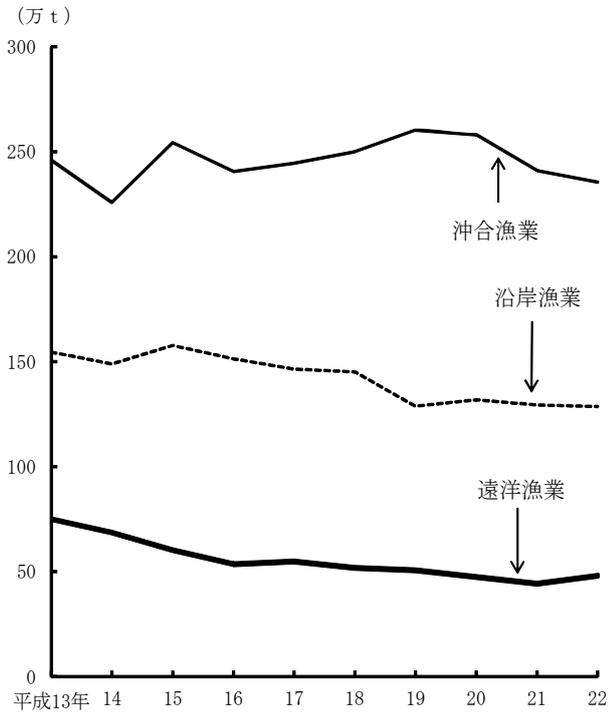


図4 遠洋漁業における主要漁業種類別漁獲量の推移

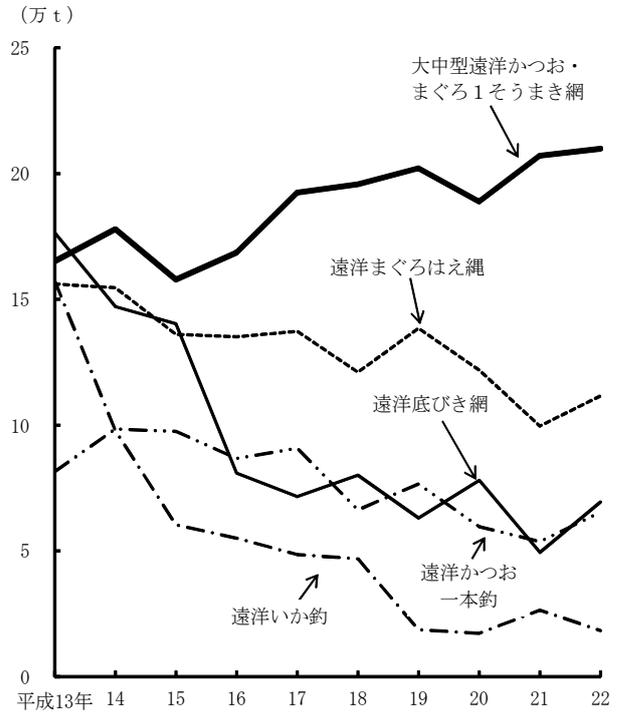


図5 沖合漁業における主要漁業種類別漁獲量の推移

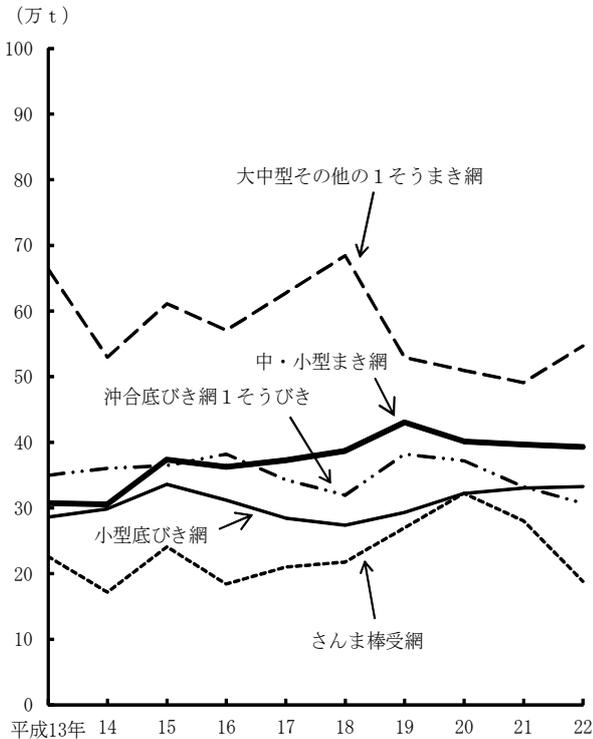
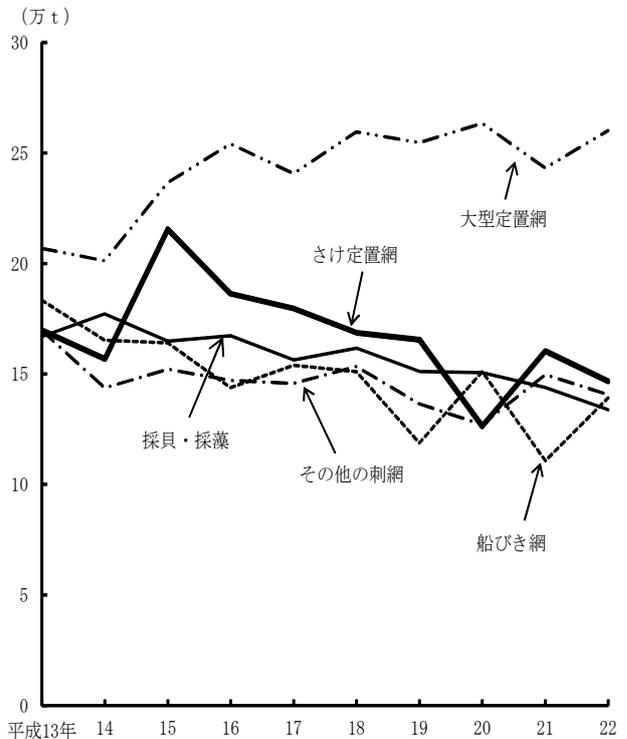


図6 沿岸漁業における主要漁業種類別漁獲量の推移

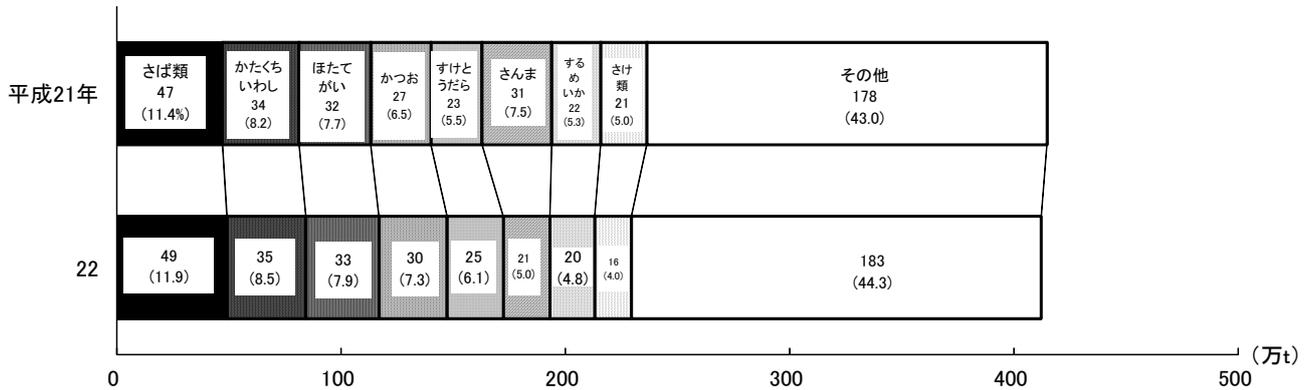


イ 主要魚種別漁獲量

海面漁業の魚種のうち、漁獲量が前年に比べて増加した主な魚種は、いかなご、かつお、ぶり類、すけとうだら、きはだであり、減少した主な魚種はさんま、さけ類、ほっけ、するめいか、あかいかであった。

この結果、海面漁業の漁獲量に占める主要魚種の割合は、さば類が11.9%、かたくちいわしが8.5%、ほたてがいが7.9%、かつおが7.3%、すけとうだらが6.1%、さんまが5.0%、するめいかは4.8%、さけ類が4.0%となった。

図7 海面漁業主要魚種別漁獲量



(ア) さば類

漁獲量は49万1,813 tで、前年に比べ2万909 t (4.4%)増加した。

これは、大中型その他の1そうまき網等による漁獲量が減少したものの、大型定置網、中・小型まき網等による漁獲量が増加したためである。

(イ) かたくちいわし

漁獲量は35万683 tで、前年に比べ8,749 t (2.6%)増加した。

これは、大中型2そうまき網、船びき網等による漁獲量が減少したものの、大中型その他の1そうまき網、大型定置網等による漁獲量が増加したためである。

(ウ) ほたてがい

漁獲量は32万7,087 tで、前年に比べ7,449 t (2.3%)増加した。

これは、小型底びき網等による漁獲量が増加したためである。

(エ) かつお

漁獲量は30万2,851 tで、前年に比べ3万4,326 t (12.8%)増加した。

これは、遠洋かつお・まぐろ1そうまき網等による漁獲量が減少したものの、近海かつお・まぐろ1そうまき網、遠洋かつお一本釣、近海かつお一本釣等による漁獲量が増加したためである。

(オ) すけとうだら

漁獲量は25万1,166 tで、前年に比べ2万3,905 t (10.5%)増加した。

これは、その他の刺網等による漁獲量が減少したものの、沖合底びき網1そうびき、沖合底びき網2そうびき等による漁獲量が増加したためである。

(カ) さんま

漁獲量は20万7,488 tで、前年に比べ10万3,256 t (33.2%) 減少した。
これは、さんま棒受網等による漁獲量が減少したためである。

(キ) するめいか

漁獲量は19万9,832 tで、前年に比べ1万8,826 t (8.6%) 減少した。
これは、さけ定置網、小型定置網等による漁獲量が増加したものの、沿岸いか釣、近海いか釣等による漁獲量が減少したためである。

(ク) さけ類

漁獲量は16万4,616 tで、前年に比べ4万1,126 t (20.0%) 減少した。
これは、さけ定置網、大型定置網等による漁獲量が減少したためである。

図8 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移 (上位1位~4位)

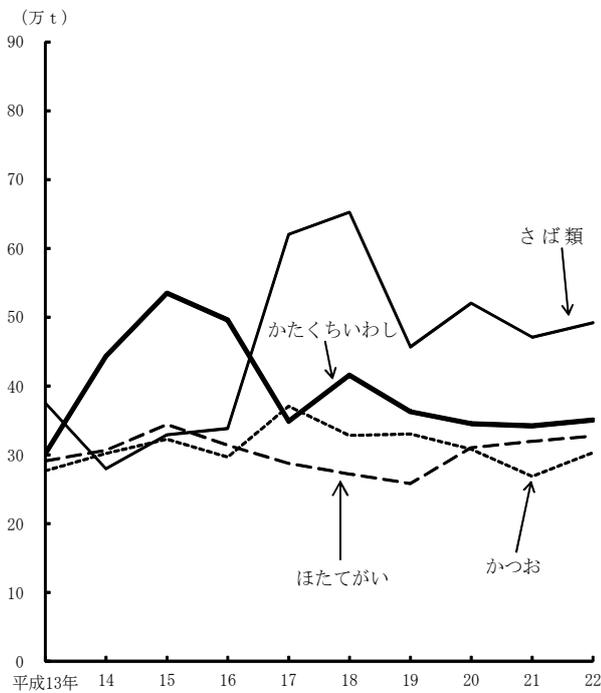
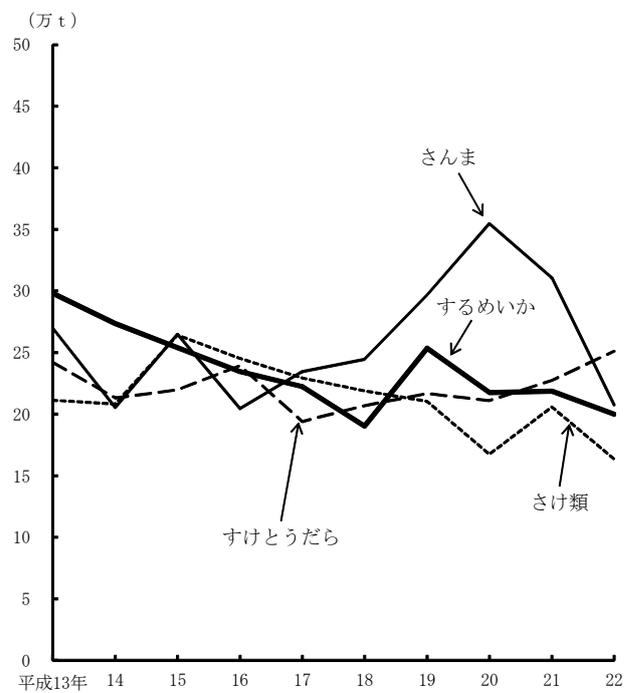


図9 海面漁業主要魚種別漁獲量の推移 (上位5位~8位)



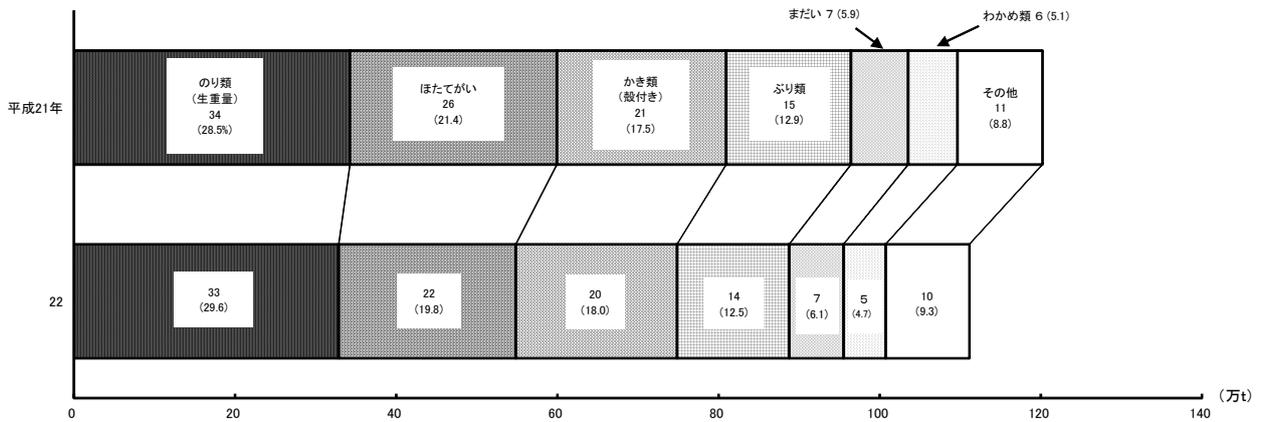
(2) 海面養殖業

海面養殖業の収穫量は111万1,338 tで、前年に比べ9万734 t (7.5%) 減少した。

海面養殖業の魚種のうち、収穫量が前年に比べて増加した主な魚種は、こんぶ類等であり、減少した主な魚種は、ほたてがい、ぶり類、のり類等であった。

この結果、海面養殖業の収穫量に占める主要魚種の割合は、のり類が29.6%、ほたてがいが19.8%、かき類(殻付き)が18.0%、ぶり類が12.5%、まだいが6.1%、わかめ類が4.7%となった。

図10 海面養殖業主要魚種別収穫量



ア 魚類

収穫量は24万5,712 tで、前年に比べ1万9,054 t (7.2%) 減少した。

(ア) ぶり類

収穫量は13万8,936 tで、前年に比べ1万6,007 t (10.3%) 減少した。
これは、鹿児島県、愛媛県等で減少したためである。

(イ) まだい

収穫量は6万7,607 tで、前年に比べ3,352 t (4.7%) 減少した。
これは、愛媛県等で減少したためである。

(ウ) ぎんざけ

収穫量は1万4,766 tで、前年に比べ1,004 t (6.4%) 減少した。

イ 貝類

収穫量は42万732 tで、前年に比べ4万7,368 t (10.1%) 減少した。

(ア) ほたてがい

収穫量は21万9,649 tで、前年に比べ3万7,046 t (14.4%) 減少した。
これは、北海道、青森県等で減少したためである。

(イ) かき類 (殻付き)

収穫量は20万298 tで、前年に比べ9,890 t (4.7%) 減少した。
これは、宮城県、岩手県等で減少したためである。

図11 海面養殖業魚種別収穫量の推移（魚類）

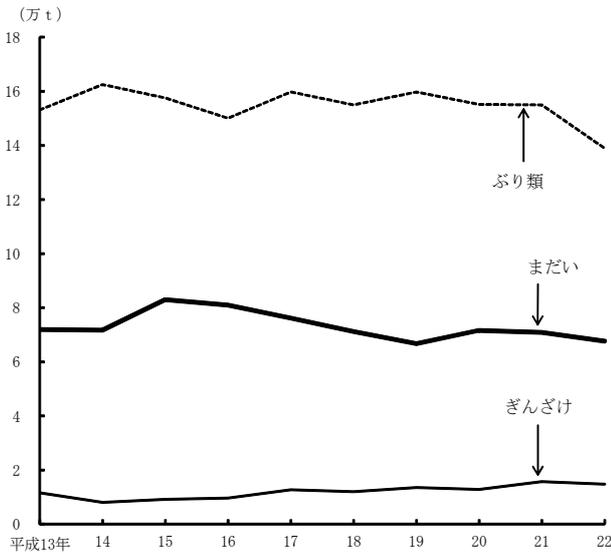
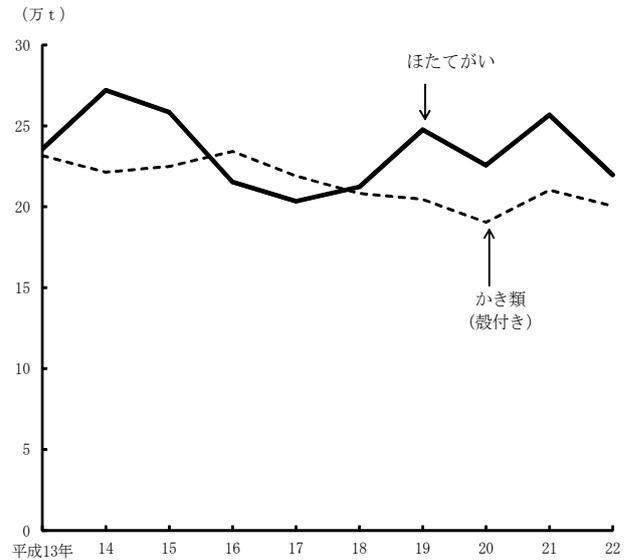


図12 海面養殖業魚種別収穫量の推移（貝類）



ウ 海藻類

収穫量は43万2,796 tで、前年に比べ2万3,630 t (5.2%) 減少した。

(ア) のり類（生重量）

収穫量は32万8,700 tで、前年に比べ1万3,920 t (4.1%) 減少した。

これは、福岡県、香川県等で減少したためである。

(イ) わかめ類

収穫量は5万2,393 tで、前年に比べ8,822 t (14.4%) 減少した。

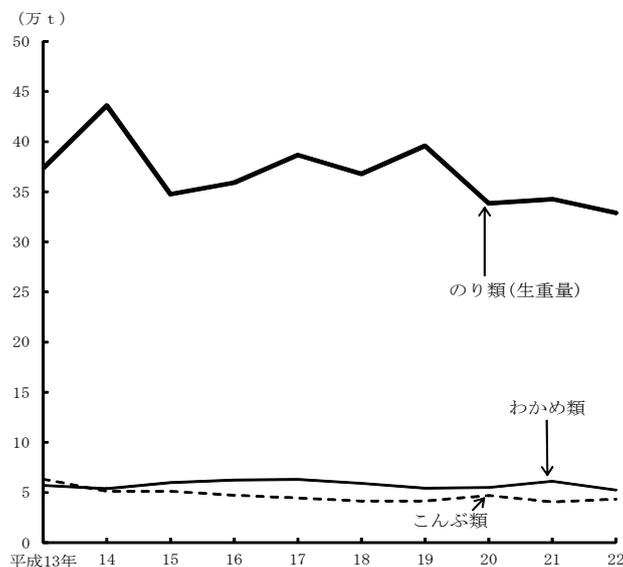
これは、岩手県、宮城県等で減少したためである。

(ウ) こんぶ類

収穫量は4万3,251 tで、前年に比べ2,854 t (7.1%) 増加した。

これは、岩手県等で増加したためである。

図13 海面養殖業魚種別収穫量の推移（海藻類）



(3) 内水面漁業

内水面漁業（全国の主要 108 河川及び 24 湖沼）の漁獲量は 3 万 9,844 t で、前年に比べ 1,794 t（4.3%）減少した。

ア 河川・湖沼別漁獲量

河川における漁獲量は 2 万 400 t で、前年に比べ 1,344 t（6.2%）減少した。

また、湖沼における漁獲量は 1 万 9,444 t で、前年に比べ 450 t（2.3%）減少した。

イ 主要魚種別漁獲量

(ア) さけ類

漁獲量は 1 万 2,580 t で、前年に比べ 147 t（1.2%）減少した。

これは、岩手県、福島県等で減少したためである。

(イ) しじみ

漁獲量は 1 万 1,189 t で、前年に比べ 757 t（7.3%）増加した。

これは、茨城県、青森県等で増加したためである。

(ウ) あゆ

漁獲量は 3,422 t で、前年に比べ 203 t（5.6%）減少した。

これは、岐阜県等で減少したためである。

(エ) わかさぎ

漁獲量は 1,967 t で、前年に比べ 42 t（2.1%）減少した。

これは、北海道等で減少したためである。

(オ) ふな

漁獲量は 778 t で、前年に比べ 69 t（8.1%）減少した。

これは、茨城県等で減少したためである。

図 14 内水面漁業主要魚種別漁獲量

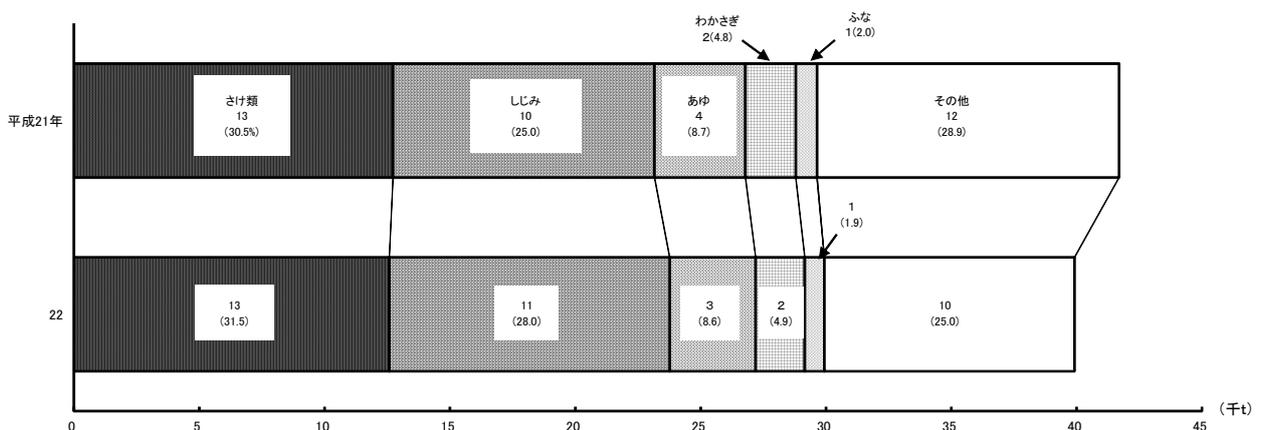
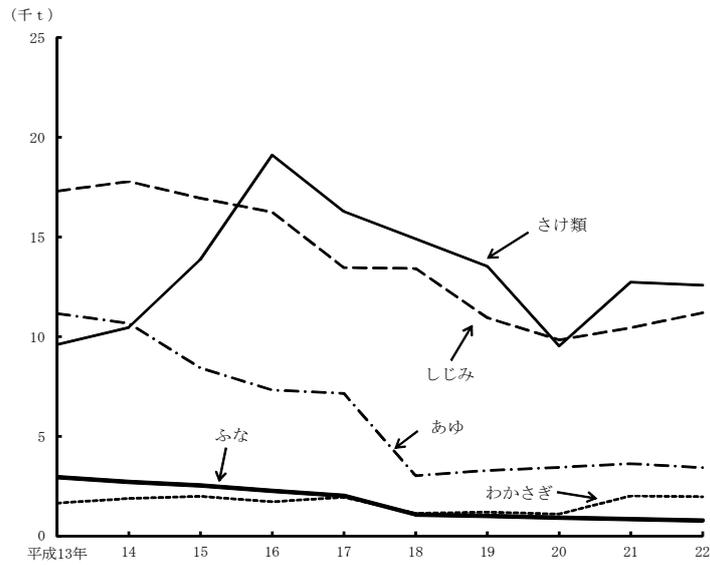


図 15 内水面漁業主要魚種別漁獲量の推移



(4) 内水面養殖業

内水面養殖業の収穫量は3万9,403 tで、前年に比べ1,524 t (3.7%) 減少した。

ア うなぎ

収穫量は2万543 tで、前年に比べ1,863 t (8.3%) 減少した。

これは、愛知県等で減少したためである。

イ にじます

収穫量は6,102 tで、前年に比べ208 t (3.3%) 減少した。

これは、青森県等で減少したためである。

ウ あゆ

収穫量は5,676 tで、前年に比べ161 t (2.8%) 減少した。

これは、宮崎県等で減少したためである。

エ こい

収穫量は3,692 tで、前年に比べ782 t (26.9%) 増加した。

これは、茨城県等で増加したためである。

図 16 内水面養殖業主要魚種別収穫量

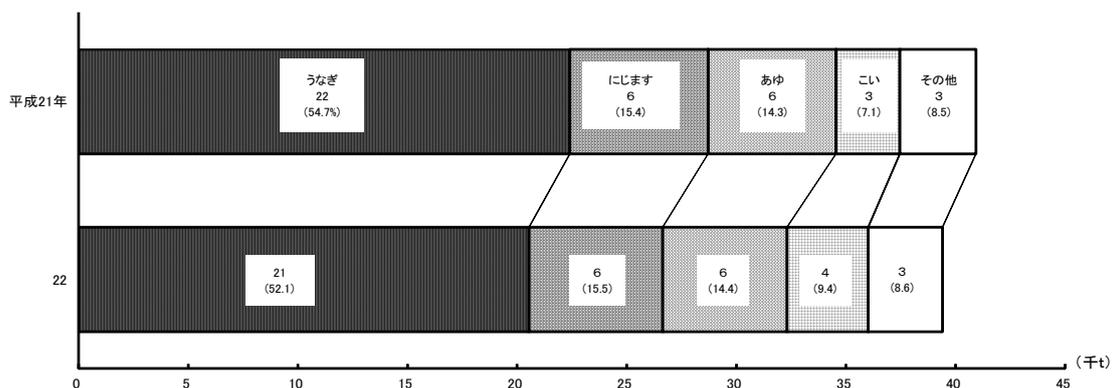
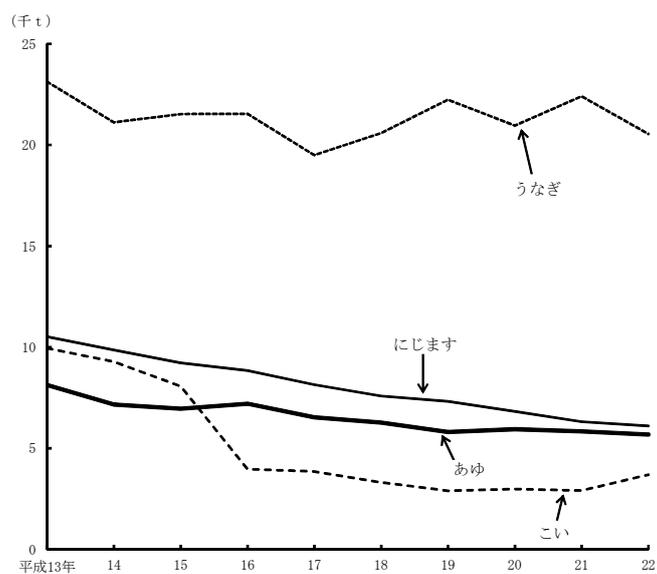


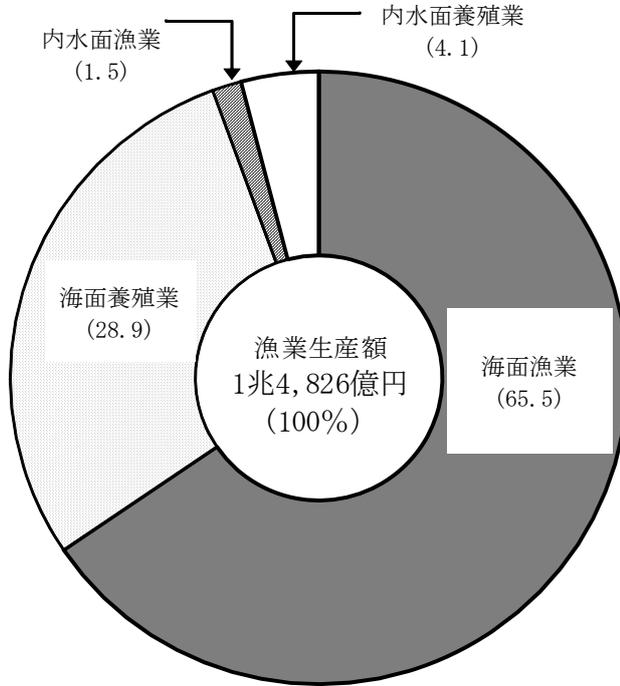
図 17 内水面養殖業主要魚種別収穫量の推移



2 漁業・養殖業生産額

平成 22 年の漁業生産額は 1 兆 4,826 億円で、前年に比べ 0.8 % 増加した。

図 18 漁業生産額の構成比



(1) 海面漁業

海面漁業の生産額は 9,711 億円で、前年に比べ 0.1 % 減少した。

魚類の生産額は 6,888 億円で、前年に比べ 0.7 % 減少した。

ア 生産額が減少した主な魚種

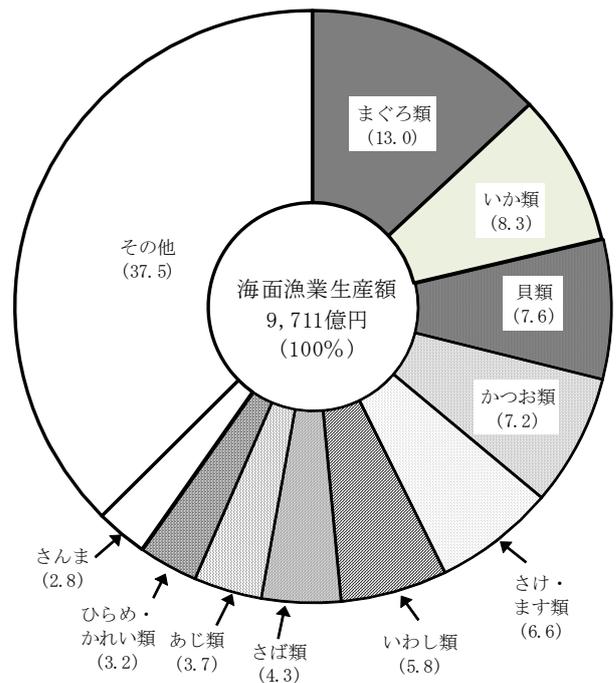
(ア) さけ類

生産額は 602 億円で、価格が上昇したものの、漁獲量は減少したことから前年に比べ 12.3 % 減少した。

(イ) くろまぐろ

生産額は 150 億円で、価格が上昇したものの、漁獲量は減少したことから前年に比べ 37.9 % 減少した。

図 19 海面漁業生産額の魚種別構成比



(ウ) たこ類

生産額は190億円で、漁獲量が減少したことに加え、価格も低下したことから前年に比べ11.7%減少した。

イ 生産額が増加した主な魚種

(ア) さんま

生産額は275億円で、漁獲量が減少したものの、価格は上昇したことから前年に比べ25.3%増加した。

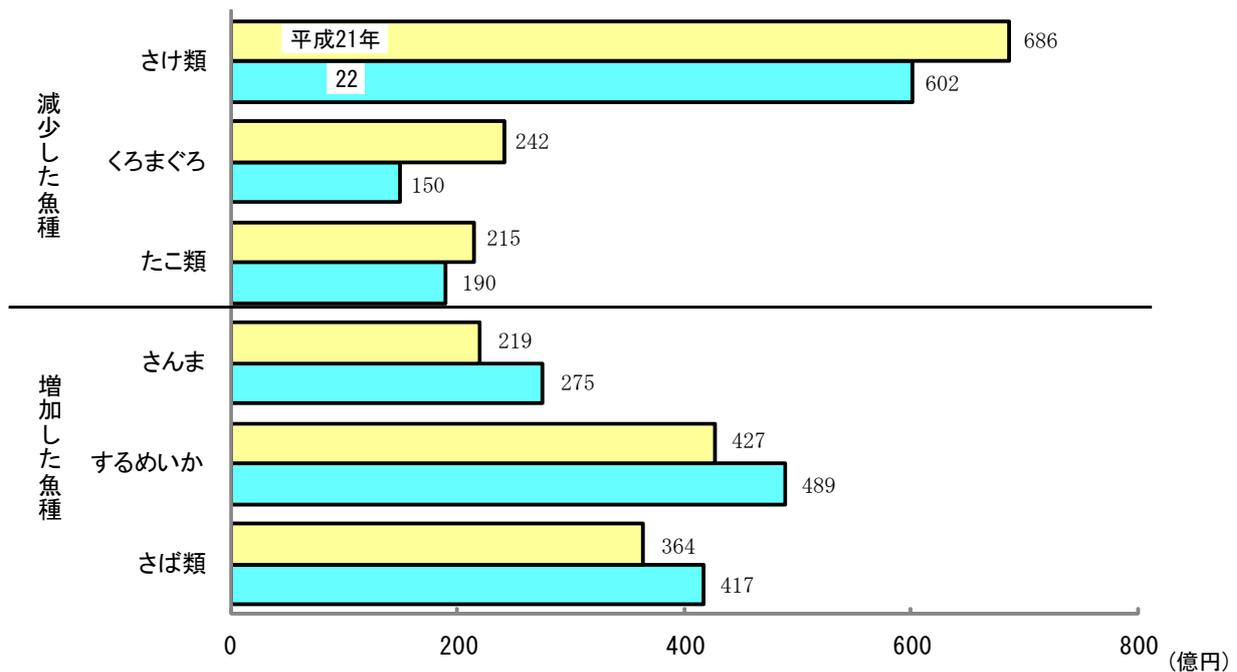
(イ) するめいか

生産額は489億円で、漁獲量が減少したものの、価格は上昇したことから前年に比べ14.7%増加した。

(ウ) さば類

生産額は417億円で、漁獲量が増加したことに加え、価格も上昇したことから前年に比べ14.6%増加した。

図20 海面漁業の主要魚種別生産額



(2) 海面養殖業

海面養殖業の生産額は 4,284 億円で、前年に比べ 4.6%増加した。

魚類養殖の生産額は 2,187 億円で、前年に比べ 6.3%増加した。

ア 生産額が増加した主な魚種

(ア) まだい

生産額は 506 億円で、収穫量が減少したものの、価格は上昇したことから前年に比べ 10.2%増加した。

(イ) かき類

生産額は 336 億円で、収穫量が減少したものの、価格は上昇したことから前年に比べ 14.2%増加した。

イ 生産額が減少した主な魚種

(ア) くるまえび

生産額は 74 億円で、収穫量が減少したことに加え、価格も低下したことから前年に比べ 11.0%減少した。

(イ) わかめ類

生産額は 83 億円で、収穫量が減少したことに加え、価格も低下したことから前年に比べ 23.4%減少した。

図 21 海面養殖業生産額の魚種別構成比

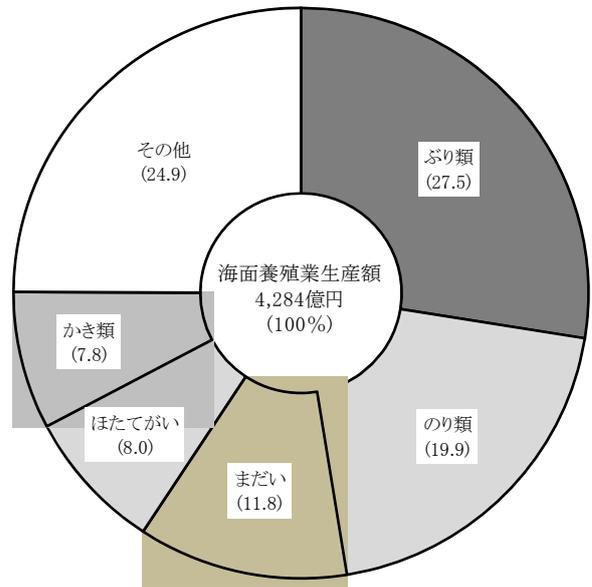
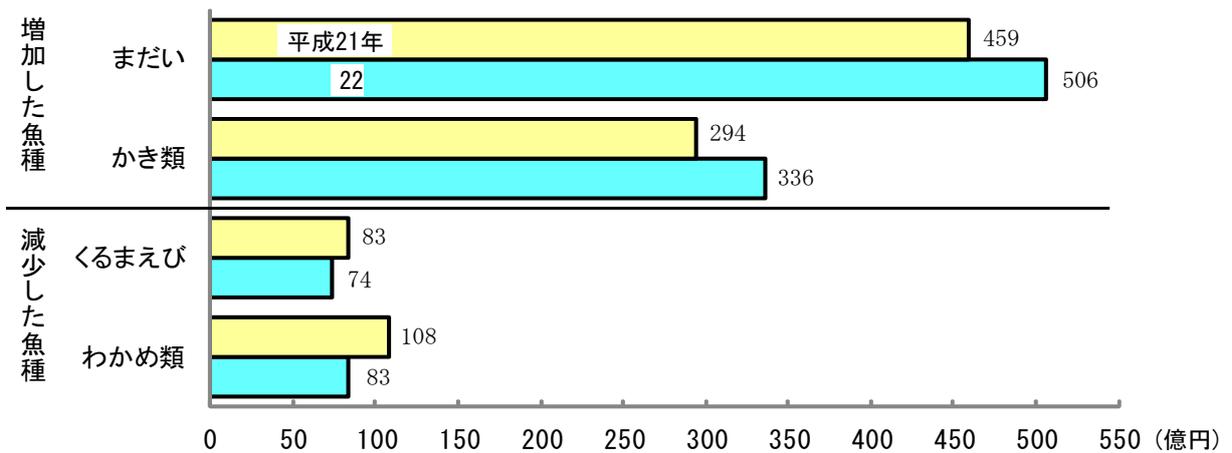


図 22 海面養殖業の主要魚種別生産額



(3) 内水面漁業・養殖業

内水面漁業・養殖業の生産額は830億円となり、前年に比べ6.4%減少した。

ア 内水面漁業の生産額は228億円で、前年に比べ13.7%減少した。

これは、あゆの生産額が84億円で、漁獲量が減少したことに加え、価格も低下したことから前年に比べ18.3%減少したためである。

イ 内水面養殖業の生産額は602億円で、前年に比べ3.4%減少した。

これは、うなぎの生産額が383億円で、価格は上昇したものの、収獲量が減少したことから前年に比べ5.8%減少したためである。

図 23 内水面漁業及び養殖業の主要魚種別生産額

